令和５年２月１日　第 12 号

坂戸市立三芳野小学校学校だより

若　葉

みよし野のたのむの雁もひたぶるに
　君が方にぞよると鳴くなる
わが方によると鳴くなるみよし野の
　たのむの雁をいつか忘れむ（「伊勢物語」）

のびのびと生きる子…みんなと仲良くする子、よろこんで学ぶ子、しんけんに体をきたえる子
目指す学校像　○一人ひとりが学校・地域を愛し、より良い自分をめざし、力を発揮する。
○一人ひとりが仲間から必要とされ、互いの良さを認め合う。

≪「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ち≫　◎みんなと仲良くする子

学校生活では、日頃から「ありがとう」や「ごめんなさい」と言えるように担任が指導しています。勿論、このことは、ご家庭でも同様の働きかけをしていただいていることでしょう。私自身も運動会や連合運動会の閉会式等で感謝の気持ちを表すように子供たちには伝えてきました。

大勢が集団で過ごす学校で、子供たちは、誰かに手伝ってもらったり、助けてもらったりする場面が多くあります。その時に機を逃さずに「ありがとう」とお礼や感謝の気持ちを伝えることがとても大切です。お礼を言うことで、してもらったことを分かっていると相手に伝えられるとともに、感謝の気持ちも伝えられるからです。

「ありがとう」という言葉は、１秒もあれば言うことのできる短い言葉です。言うととても温かい気持ちになります。時には、お礼を言葉ではなく、表情やお辞儀などで表すこともあります。大切なことは、「ありがとう」の気持ちを相手にしっかりと伝えることだと言えます。そうなれば、助けた方も「手伝ってよかった。応援してよかった」と、さわやかな気持ちになります。

一方、「ごめんなさい」を言うことはなかなか難しいようです。子供たちのトラブルでは、謝った・誤っていない、悪い・悪くない、といった対立がよくあります。

ひとつのことば

ひとつのことばで　けんかして
ひとつのことばで　なかなおり
ひとつのことばで　頭が下がり
ひとつのことばで　心が痛む
ひとつのことばで　楽しく笑い
ひとつのことばで　泣かされる
ひとつのことばは　それぞれに
ひとつの心を　持っている
きれいなことばは　きれいな心
やさしいことばは　やさしい心
ひとつのことばを　大切に
ひとつのことばを　美しく

（この詩について、作者と思われる方が何人かいるそうです。）

話を聞くと、「悪気はなかった、自分のせいではない。迷惑はかけていないと思う・・・」という理由が多くあります。だから、「ごめんなさい」を言わなくてもいい。お互い様だから謝らなくてもいい。となり、意見が平行線をたどってしまいます。

大概の場合は、担任が両者の話を聞いたうえで状況を整理すると、子供も納得して「ごめんなさい」「今度から気を付けてね」という形で落ち着いていきます。このようなことを幾度となく繰り返して、次第に子供も謝る術や許す心を身に付けていきます。

大人も子供も「ありがとう」と「ごめんなさい」を必要な時にタイミングよく伝えられるように、相手の気持ちを意識して、生活できると良いですね。